

図書館だより

『ラチとらいおん』

作 マレーク・ペロニカ 訳 とくなが やすとも 福音館書店

一歩踏み出す勇気がもらえる絵本

ラチの夢は、飛行士になること。けれども、ラチはよわむしで、犬を見ると逃げ出すし、暗い部屋にはこわくて入ることができません。大勢の友達の中にもいることもこわいのです。なにをするのも自信がなくて…。家の中で絵本ばかり見ていました。中でも「ライオン」の絵が大好きで、「ぼくに、こんなライオンがいたら、なんにもこわくないんだけどなあ」と絵本のライオンに心を寄せていました。ある日、目を覚ますとポケットに入るくらい小さな赤いライオンがベッドのそばに姿を現します。「きみもつよくなりたいたなら、ぼくがつよくしてやるよ」と言うのです。その日から、つよくなるために特訓を受けるラチ。ライオンはラチがつよい男の子になるまで、温かく見守っていきます。毎朝体操をしたり、前までこわがってできなかったことにチャレンジしたりと。すると次々とできるようになり勇敢な男の子になっていきました。そして、ついにラチがいじわるなのっぽに勝ったとき、ポケットの中にいたはずのライオンはリングに変わっていました。1枚の手紙を残して…。

「きみはライオンとおなじくらいつよくなったね。もうぼくがいなくてもだいじょうぶだよ。ぼくはこれからよわむしのこどものところについてつよいこどもにしてやらなくちゃいけないんだ。…さよなら」

ライオンが去ってしまうのはさびしいのです

が、ラチがよわむしではなくなって夢をかなえられそううれしくなります。

この絵本の原作はハンガリーで、世界中の子どもたちに広く愛されています。きっと、この絵本を読んで、ラチのように勇気を与えられた読者が、世界にはたくさんいることでしょう。犬や暗闇などは小さな子どもたちが直面する恐怖であり、誰でも主人公のラチのようなよわむしな所を持っているもの。だから、ラチに自分の一部を重ね、共感をすることでしょう。「自分の力を信じて！勇気を出してやってみよう。勇気を持てば誰だってつよくなれるよ。」というライオンからのメッセージが伝わってきて、心の中に自信や一歩踏み出す力を与えてくれるとてもステキな絵本です。さびしがりやよわむしなお子さんに読んであげるのも、自分で読むのもよい絵本です。大人の方も、勇気をもらいたいときや自信がなくなったとき、背中を押してもらえるストーリーです。小さなハードルをひとつひとつ乗り越えて、大きく夢に向かってがんばる気持ちにさせてくれます。

読んであげるなら 4歳から

自分で読むなら 小学校低学年から



Peek a Boo

～あかちゃんとおかあさんの絵本の時間～

4月17日(火) 10:30～11:00 ☆毎月第3火曜日☆

乳幼児と保護者を対象に、1F絵本コーナーで手遊びや読みきかせをしています。どなたでもお気軽においでください。

くつしたのあな ～おはなし会を開いています～

4月21日(土) 14:30～15:00

5、6歳から小学生のみなさんのためのおはなし会です。ストーリーテリングや絵本の読みきかせをしています。是非、遊びにきてください。

開館時間	本館	9:30～18:00
	枝川分室	
休館日	本館	毎週月曜日・祝日 館内整理日(27日金曜日)
	枝川分室	月・水・金・日・祝日
電話番号	本館	☎ 850-4360
	枝川分室	☎ 850-4350

<http://inolib.town.ino.kochi.jp>

4月の展示

- ・石井桃子生誕100年記念
- ・かこさとしのあそびの世界
- ・日野原重明の「いのち」と「心」